

ベ議会だより つかい

第118号

2026年8月



初めての三味線にワクワク!!
上春別小学生

特集

地域公共交通計画って？ 2

ふるさと交流館整備 声をどう聞く 4

老後も安心して生活ができる環境を 5

さらなる向上へ～特別委員会活動がスタート～ 6

次世代農業への転換を後押し！ 補正予算可決 7

一般質問（田村・中村・伊勢・松原・外山・市川・今西・高橋・小椋・吉田の10議員） 8

議会活動アラカルト《議会だより特選受賞他》 13

連載 「Let's go! 議会!」 <第6回> 14

シリーズおじゃましま～す 三世代の音を、子どもたちへ 16



北海道別海町議会

地域公共交通計画って？

知ろう！

考えよう！

声を上げよう！



現状の課題

高齢化の進行・世帯構成の変化・交通空白地の拡大により、移動手段の確保が大きな課題となっています。

特に、高齢者や車の免許を持たない方々にとって、日々の生活に必要な移動をどのように確保するかが切実な問題です。

「バスやハイヤーが少なくて使えない」
「免許を返したいけど、移動手段がなくて」
「買い物や通院に困っている」

地域めぐり懇談会でも、こうした声が多く寄せられています。

町民の声を行政へ

令和7年12月定例会 一般質問から

【質問】 移動手段確保の課題に取り組むに当たり、町民の意見をどのように反映させていくのか。

【答弁】 地域公共交通計画の策定に2年間の想定。
1年目は町民アンケートを実施し、2年目に法定協議会で町民意見を反映させる予定。



地域公共交通計画策定へ

地域公共交通の維持・存続には、行政・町民・団体・企業が連携した地域一体の取り組みが不可欠であり、公共交通ネットワークの構築が必要です。

別海町では、高齢者の移動手段の確保に関する課題や、交通空白地の解消について計画に盛り込み、課題解決に向けた取り組みを推進していきます。

地域公共交通計画とは？

地域の移動手段を将来にわたって確保するために、町が交通事業者や町民と協議して作成する公共交通の将来設計です。

人口減少や運転手不足の中でも、バス・ハイヤー・スクールバス・福祉輸送など地域の多様な運送資源を活用することが大切です。

誰もが安全・安心に移動できる交通網を維持・発展させていくために、町民の皆様からご意見を伺いながら、地域の実情に合わせた方針や目標を策定します。



今後どんなことをやるの？

議会と行政で行われる課題共有会議で、計画策定の方向性が示されました。

こんなこと
やっていきます



- ① 現状分析 ② 町民アンケートや聞き取り調査
- ③ 地域公共交通協議会の設立

イメージした
交通手段



- ① デマンド交通 ② ライドシェア ③ 自動運転EVバス

整理したいこと



- ① 既存サービスの統合・拡充
(バス・ハイヤー共通利用券、外出支援サービス、地域生活バス、
通院等乗合ハイヤー他)
- ② 各種サービスの再周知・意見募集
- ③ 自動運転実証実験（別海市街地）の検討



あなたの声が町の**未来**を変えます!!

この地域公共交通計画は、町の未来の姿を描くための大切な一歩です。

皆様一人一人の声が、より便利でより安心な移動手段の実現につながります。

ぜひ、アンケートや意見募集にご参加いただき、あなたの思いを伝えてください。誰もが暮らしやすい町を一緒につくっていきましょう！

総務産業常任委員会の活動報告

委員長 今西 和雄 副委員長 宮越 正人 委員 戸田 憲悦・佐藤 初雄・松原 政勝・小椋 哲也・高橋眞結美・市川 聖母

ふるさと交流館整備 声をどう聞く

住民参加と財政的視点を 重視した検討

産業振興部から、ふるさと交流館の再整備に向けた検討状況の報告がありました。運営の仕組みは、公設民営や公設公営など、複数の手法を比較しながら検討しており、宿泊・温浴事業者への聞き取りも重ねています。

基本設計がまとまり次第、7月以降に別海・西春別駅前・尾岱沼の3地区で町民説明会を開く予定です。

委員からは、平日昼間の説明会だけでは参加者が偏りやすいため、町公式LINEなども活用して、幅広く声を集めるべきとの指摘や、整備や運営に伴い、地域にどれだけの財政負担が生じるのかを見極める視点の大切さが示されました。



A-1活用で変わる 役場の仕事

専門家支援と職員の 主体的な活用を目指す

経営管理部から、A-1や定型業務を自動化する技術を使った業務効率化の取り組みが報告されました。

国の制度である地域活性化企業人を、6月から迎えています。

月の半分ほど役場に常駐しながら、各部署の課題整理から生成A-1の活用まで支援を受けています。

将来は職員自身が生成A-1を使いこなし、業務の効率化を目指します。



ギカイの目

町民の声をどう反映するか

委員会では、産業振興部が町民説明会の進め方を検討していることを踏まえ、各部署と連携して取り組む姿勢を確認しました。

委員会としても、幅広い年代・立場の声をどう集めるかを調査していきます。

施設の今後の在り方については、町の方針を示した上で、実施設計前に町民の声を聴く機会の確保を、町に求めました。

専門家の動きを注視

専門家の来庁回数を踏まえ、9月をめどに進捗状況の報告を求めます。

議会事務局の業務効率化への関わり方も含め、専門家の活動が、実際の町民サービスの向上にどうつながるかを見極めながら、今後の動向を引き続き注視していきます。

福祉文教常任委員会の活動報告

委員長 外山 浩司 副委員長 横田 保江 委員 中村 忠士・田村 秀男・貞宗 拓雄・伊勢 徹・吉田 和行

老後も安心して
生活ができる環境を

老後の生活を支援する 2カ所の高齢者施設を視察

〈西春別ケアセンターかしわ野〉

西部地区の在宅福祉の拠点として、平成18年に設置され、デイサービス、訪問介護、高齢者生活ハウスの3つの業務の他、独自の配食サービスなどを行っています。

【入居定員】 9人（9室・個室）

2人（1室・夫婦型）

【職員数】 23人

〈別海町ケアハウスみどり野〉

平成10年に設置され、身体機能の低下や、独立した生活に不安が認められる高齢者が入居できる高齢者施設で、各部屋にはナースコール、廊下にはカメラが設置され、入居者の安全の見守りに努めていました。業務内容は、食事の提供、入浴、レクリエーションなどです。

【入居定員】 30人（30室・個室）

【職員数】 4人

※職員数は指定管理に係る人数です。

別海町の鳥獣対策は

箱わなの捕獲件数が 過去最多ペース

別海町における有害鳥獣対策、ヒグマ対策では大型の箱わな1基、特大1基の設置、自動撮影カメラ、赤外線対応ドローン、撃退スプレーなどの配備状況や捕獲実績を調査しました。

箱わな捕獲実績として令和6年度5頭、7年度9頭、8年度5頭（6月22日現在）。また、野犬対策として遠隔操作式捕獲おりの試験運用状況、周辺自治体との情報共有体制なども調査しました。

猟友会では高齢化の一方、若い世代の免許取得が増加傾向にあることや、地域おこし協力隊員の配置・着任状況など、町民の安全を守る体制の維持・強化に向けて、今後も注視していきます。



ギカイの目

独自事業と指定管理業務

2つの施設は、「道東あさひ農業協同組合」と「別海町社会福祉協議会」が指定管理者として運営を行っています。

ケアセンターかしわ野では、独自事業の「居宅介護支援事業」がケアマネジャー不足により中止となっています。

指定管理者と町との間で、実情を踏まえた協議が必要との意見が、多くの委員から出されました。

日常生活を守るための取り組み

クマの目撃件数および市街地への出没件数が増加しています。町民の安心を確保するための対策が急務です。

今回の調査では、箱わなの有効な設置方法・設置場所をはじめ、長年の経験に基づく工夫や試行錯誤の成果を確認できました。

今後も、こうした取り組みの動向を継続的に追っていきます。

議会活性化等調査特別委員会報告

委員長 中村 忠士 副委員長 小椋 哲也 委員 今西 和雄・外山 浩司・貞宗 拓雄・伊勢 徹・高橋眞結美・市川 聖母

さらなる向上へ

（特別委員会活動がスタート）

議会活性化等調査特別委員会は、本年3月定例会の議決により設置されました。調査期間は1年です。

特別委員会設立の目的

- 1 第3期議会活性化計画期間の活動を広い視点で調査し総括する
- 2 総括を生かし、さらなる議会活性化につなげる第4期議会活性化計画を策定する

特別委員会の調査事項

重点テーマ

- ① 議員のなり手不足問題
問題の所在や実態、対策事例などを調査し、検討

② 政務活動費

目的や具体的な事例を調査し、導入の必要性・有効性を検討

③ 一般質問制度

取り組み事例などを調査し、一般質問のレベルアップにつながる制度の改善や充実の方策を検討

この3点を徹底調査、協議を経て、第4期活性化計画を作り上げていきます。

教えて！ギカイダー！



議会活性化ってどういうこと？



議会が住民に開かれ、自由に活発な議論と政策形成を行えるように、運営方法や制度・議員活動を見直し、機能を高める取り組みだよ。

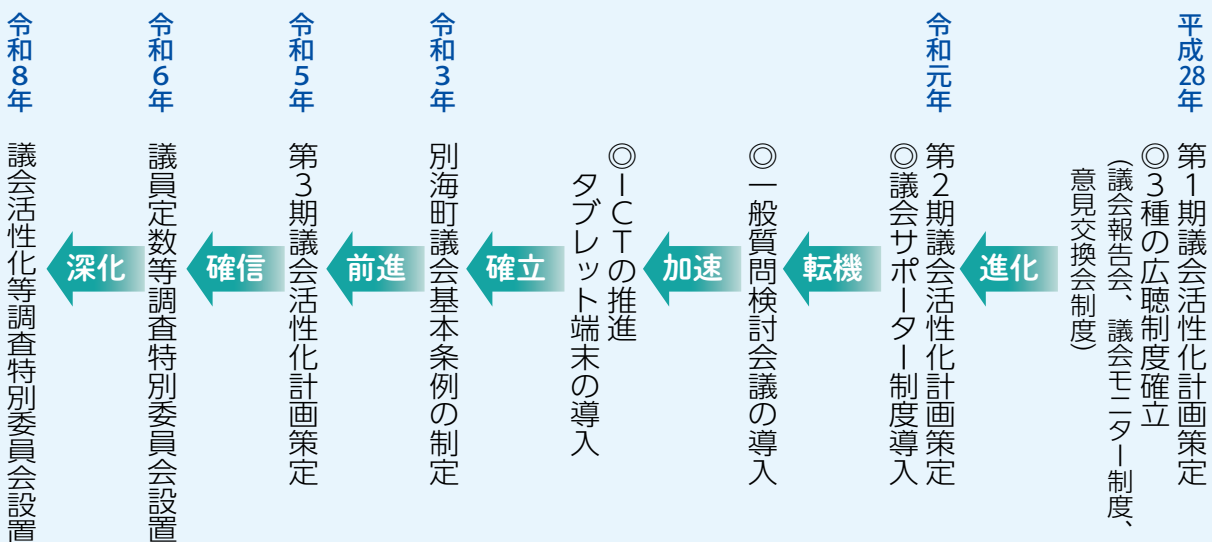


ちょっと難しいな～



分かりやすい議会・開かれた議会・結果を出す議会・行動する議会を目指す動きだよ。

別海町議会活性化の歩み



次世代農業への転換を後押し！

補正予算を可決

第2回定例会が、6月17日から23日までの7日間の会期で開催されました。

一般質問には、2日間にわたり、2年ぶりに10人が登壇しました。

補正予算は、予算決算審査特別委員会（宮越正人委員長、高橋眞結美副委員長）で審査され、本会議で可決されました。

補正内容は次のとおりです。

・一般会計

2億9千80万円増額

・国民健康保険特別会計

1千900万円増額

・病院事業会計

3千377万円増額

・下水道等事業会計

2億4千359万円減額

4会計で9千998万円の増額補正となりました。

主な事業を抜粋して紹介します。

その他の議案は、工事請負

契約7件、財産の取得4件、

辺地の総合整備計画の策定、

土地改良事業の施行、農業委員

の任命27件、繰越計算書3

件で合計51件の議案を審議

し、全て全会一致で可決され

ました。

3億3404万円

畜産クラスター事業

新規

●道東あさひ畜産クラスター

協議会フリーストール牛舎

一棟

5008万円

スマート農業関連事業

新規

●個人、法人、業種、事業規

模を問わない農業支援サ-

ビス事業

水分収量センサー位置情報付

大型コンバインを活用した畑

作収獲受託サービス2件

5196万円

地域農業構造転換

支援事業

新規

●地域の中核となって農地を

引き受ける担い手の農業用

機械・施設導入を支援する

事業3件

補助率3/10

(上限)

個人1千500万円

法人3千万円

財産の取得

2743万円

消防団防火衣

116セット



※金額の千円以下は切り捨てています。

議員発議

提出者 戸田 憲悦 議員
賛成者 今西 和雄 議員
小椋 哲也 議員

ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書を採択

委員会発委

福祉文教常任委員会
委員長 外山 浩司

医療・介護分野に対する大規模かつ抜本的な財源確保を求める意見書を採択



議員10人による一般質問

質問

5年間で、過疎地域から脱却できるのか！



たむらひでお
田村秀男議員

質問 本町の人口減少率は、令和12年度末までに25%を下回れるのか。

答弁 平成2年から令和12年までの40年間の人口減少率が適用され、人口推計では減少率が30・17%となり、指定要件を満たせず、過疎地域から脱却できない。

令和12年時点で、1万3722人を超えている必要がある、計画における目標人口は、1万2777人と推計している。

質問 今年度からスタートする変更計画では、過疎債と多額なふるさと応援寄附金が有効活用できる今こそ、将来

にわたり効果を維持する事業への大胆な投資を行うべきだ。過疎計画への「本気度」と「意欲と熱意」は。

答弁 投資を恐れず、人口を増やす気概なくして、人口を守ることはすらかなわない。「本気」であると即答する。

実行する「意欲と熱意」は、実行しなければならぬ理由があり余るほどある。

次世代への投資、老後の安心、経済成長の3つの政策柱を高く掲げ、職員一丸となり、町民の皆様とともに、過疎脱却に向けて果敢に挑戦する。

本町の職員は、全道、全国に誇れる行動を実行していると思っている。

前年度の情報をしっかりと把握して、次年度にどう生かしていくか、より住みやすいまちづくりを目指し、努力していきたい。

質問

ふるさと交流館の再整備について



なかむらただし
中村忠士議員

質問 ふるさと交流館の令和6年度の入浴客数は5万5千人で、町民に必要不可欠な施設になっている。

一方、令和3年度から令和6年度の4年間で、3億5千万円、年平均8800万円の経費がかかっている。

再整備に当たっては、かかる経費を含め町民に丁寧に説明し、町民の声を、広く、バランスよく正確に聞き取る必要がある。町の方策はどうか。

答弁 町民説明会およびパブリックコメントを実施する。その際、計画内容の他、見込まれるコスト、施設がなくなった場合の経済的損失などを示

した上、広く意見を聴く。

町民説明会は、中央地区の他、西部・東部地区でも開催し、多くの方に参加いただける機会をつくる。

会場に來られない人の意見も聞くことができるよう方法を検討する。

ホルムズ海峡封鎖の影響は

質問 海峡封鎖などにより町内中小・零細業者が大きな影響を受けている。

調査し、支援を行う必要があるのではないか。

答弁 農協、漁協および商工会を通じてオイルや資材の入手が困難になりつつあることや、食品・燃料費の高騰による影響など、状況を把握している。

各種団体などの要望意見を踏まえて、必要な支援施策を講じていく。



詳細はこちらからご覧になれます

議員10人による一般質問

質問

デジタル地域通貨 オトモノの今と未来



伊勢 徹 議員

質問 加盟店拡大に向けた今後の取り組み方針を伺う。

答弁 加盟店拡大を一步一歩堅実に進めていく。

質問 加盟店向けの導入支援策を伺う。

答弁 地域おこし協力隊員が運用している。

質問 温泉やハイヤーなどでも、オトモノを使用できるのは、いつ頃になるか。

答弁 本年度中の実現を目指している。

質問 チャージ機能を追加する計画があるか。

答弁 今年度におけるチャージ機能実装の検証は既定の計画となっている。

質問 ピンポイントに係る事業の予算はどのくらい見込んでいるか。

答弁 経費として、1千188万円を計上している。

質問 外国人労働者の登録者数と、今後、外国人労働者に登録を促す施策を考えているか。

答弁 登録者数は把握できていない。登録を促す施策は、今のところは考えていない。

質問 株式会社OTOMONの戦略的意図を伺う。

答弁 全国自治体のロールモデルの可能性を秘めた先駆的施策であり、地域商社による運営が最善の方策である。

質問 本事業の最終目標および事業規模ならびに財政安定化に向けた考え方を伺う。

答弁 オトモノが一定の規模で継続できるよう、財源確保の努力を重ねていく。

質問

超巨大地震！ その瞬間とその後



まつばらまさかつ 松原政勝 議員

質問 現在、国が示している千島海溝モデルでは、別海町で震度6強の場合、走古丹で約3〜4メートルの最大津波が想定されている。

答弁 この想定を超える規模の津波や複数波の到来に対し、走古丹防災センターや本別海地域センターなどの海岸地区の指定避難所が、避難施設としての機能をどこまで維持できると町は考えているか。

質問 津波災害警戒区域内の施設および二つの防災センターについては、国から示されている想定津波の基準水位には耐えられると判断している。

質問 大規模地震では、橋

答弁 梁の損壊、路面の崩壊などの複合的な交通障害が避難経路を寸断する恐れがある。

質問 本町での交通インフラの耐震性能は。

答弁 道路の耐震性能に関する考え方はないが、橋梁に求められる耐震性能は一定程度確保されている。

質問 海岸地区の第一避難場所が、危険化した場合の再避難経路および再避難先は。

答弁 道路が寸断された場合には、ヘリコプターを自衛隊に要請する。

質問 公助には限界があり、地域に組織されている自主防災組織の継続的な活動の考え方は。

答弁 地域におけるリーダー育成は重要と考える。

質問 次世代の地域防災を担う人材育成につながる取り組みを通じて防災意識の醸成に努める。

答弁 次世代の地域防災を担う人材育成につながる取り組みを通じて防災意識の醸成に努める。



議員10人による一般質問

質問

発熱外来の電話受付 長時間待機の改善は



とやまこうじ
外山浩司議員

質問

予約電話がつながらず、10回、20回かけたり、駐車場で、長時間待機している状況を認識しているか。

答弁

認識している。流行のピークに受診されている皆様にご不便をかけ、申し訳なく受け止めている。

院内のゾーニングに必要なスペースの確保が難しく、院内感染防止を優先するために、車内で待機していただいている。受診環境の在り方について改善が必要と考えている。

質問

解消に向け電話回線の増設や予約システムの改善策に取り組んでいく考えは。

答弁

電話問診の改善により、一定の改善をしてきた。重症乳児の院内待機や検査結果が出るまでの間、近隣の患者に対しては、一時帰宅してもらおう対策などをしてきた。

引き続き、町内唯一の病院としての役割を踏まえ、改善に取り組んでいく。

さらに、冬季節に予想される流行期に向け、看護師の受付体制も含め、検討していく。

質問

診察する医師の人数は。

答弁

内科医の常勤医と、発熱外来の出張医2人で対応している。

質問

医師が増えなければ、長時間待機の縮小にはつながらないか。

答弁

流行期の混雑時には、外科医も診療対応に当たっている。

状況に応じて院内の体制を整え、対応している。

質問

別海町で 在宅看取りはかなうのか



いちかわ まりあ
市川聖母議員

質問

在宅看取りを望んでいても、手続きへの不安から、やむを得ず入院を選ばざるを得ないケースを、町はどう受け止めているか。

答弁

死亡診断書の手続きへの不安や、警察による検視への懸念から、入院を選ばざるを得ないケースについて、具体的な件数は把握していない。

医療や介護の現場で相談があることは認識している。

質問

以前、尾岱沼で行われていた訪問診療や在宅看取りが、なぜ今は難しいのか。

答弁

在宅看取りを希望する方がいることは認識しており、尾岱沼診療所で訪問診療

は続けている。医師が対応できる場合は在宅看取りに対応し、難しい場合は別海病院での対応につなげている。

質問

ICT活用で医師の負担を減らし、多職種の連携で在宅看取りを支える体制を整える考えは。

答弁

別海病院では、グループホーム利用者にオンラインツールを使った診療や助言を行っている。

医師の移動負担を減らし、専門的な医療を地域診療に生かしている。

24時間対応の訪問診療の確立や医師確保など課題は多い。

しかし、高齢化が進む中、住み慣れた自宅や地域で療養し、最期を迎えたいという需要の高まりが見込まれる。

関係機関との連携を深め、知見を生かし、将来的な体制整備に向け検討を進める。



詳細はこちらからご覧になれます

議員10人による一般質問

質問

6・3制義務教育80年の変遷と義務教育学校への考え方



いまにしかず お
今西和雄議員

質問 わが町の教育の歩みをどのように振り返り、位置付けているか。

答弁 先人たちが築いてこられた教育の歴史と、思いを大切に、コミュニティ・スクール（CS）を土台に、急激に変化する時代の中にあっても、生きる力を育む学校教育の充実に努めていく。

質問 今動き出した別海中央地区の校舎一体型義務教育学校への考え方は。

答弁 CS・PTAから、義務教育学校の建設をとの強い要望があり、建設に向けて議論を行っている。他2地区においても希望がある。

質問 今後6・3年制の義務教育の編成から、9年制の義務教育学校に移行の考えは。

答弁 義務教育学校を含めたさまざまな制度の可能性など、総合的に勘案し検討する。

質問 急激な少子化時代を迎え、20年先を区切りに義務教育学校一校に集約する議論もすべきでは。

答弁 多角的な観点から慎重に検討すべきであると思う。

現時点で特定の形に集約を前提とした議論をする考えはない。

人口動態や財政状況、教育内容の方向性など、丁寧に見極め、地域・学校関係者などと十分対話を重ね、子どもたちに最善となる義務教育学校の将来像について、責任ある検討を進めていく。

質問

高齢者の特殊な移動、透析患者の通院移動支援



たかはし まゆみ
高橋眞結美議員

質問 透析患者は既存の交通手段が使いつらく、家族の送迎に頼る状況だ。

町の外出支援サービスや通院等乗合ハイヤーの柔軟な利用、拡充などの見解を伺う。

答弁 現在、策定に着手した「地域公共交通計画」では、通院される全ての方を対象とした、移動支援サービスの検討を進める考えだ。

通院する方の移動ニーズを可能な限り把握し、既存交通サービスの柔軟な活用や拡充、新たなサービスの展開を計画に反映していく。

老人施設の送迎サービスを

質問 近隣市町の施設が、シヨートステイの送迎サービスを実施している現状だ。

本町の老人保健施設すこやかも、送迎サービスを始めないか。

答弁 高齢者を取り巻く環境も変化している状況を踏まえ、取り組むべき課題と認識している。

必要な人員確保を含めた体制整備のめどが立ったら取り組んでいく。

質問 送迎サービスを実施する前提で、人員確保の整備にかかると捉えていいか。

答弁 その通りだ。来年度に向けて人員の募集をしている。採用できた場合は、令和9年度から送迎サービスを実施していきたい。



議員10人による一般質問

質問

特別支援学校通学を 地域で支える



おぐらつや
小椋哲也議員

質問

障がいのあるお子さんが町外の道立特別支援学校に通うご家庭では、町のスクールバスが使えず、毎日の長時間の送迎で保護者の負担が大きい。北海道の通学費補助も金銭にとどまる。同じ町でも通学支援に大きな差が生じている「制度の谷間」を、町として解決すべき重要な課題と認識しているか。

答弁

町としても重要な課題と認識している。通学手段の確保や、負担面で十分な支援が行き届いていないご家庭が存在しており、特別支援教育の充実を図る上での検討課題として位置付けている。

質問

町は保護者の会から相談を受け、関係部局合同で意見交換会を持った。当事者と関連事業者が今後も話し合いを続ける中で、町として情報共有や伴走支援を続けていく考えはあるか。

答弁

先月末の意見交換会の中で、町としても情報を共有し、継続して関わっていくこととしている。

必要に応じて改めて協議の場も設けていく考えである。

質問

当事者や関連事業者が、地域の中で担い手の見通しを立てた場合、町として事業化も含め、全面的に後押しする意思はあるか。

答弁

制度の実施には体制の整備が欠かせない。当事者や関連事業者が担い手となる体制が整えば、町として事業化も含め、全面的に支援していく考えである。

質問

生活インフラ維持に対する 人材確保・資格取得支援



よし だ かずゆき
吉田和行議員

質問

生活インフラ維持の現状と今後の見通しや、庁舎内技術職員の体制と課題は。

答弁

町内事業者の協力で、現時点では生活インフラに必要な機能はおおむね確保されている。

一方で将来にわたり安定した管理体制を維持するためには、人材確保と技術継承が重要な課題であると認識している。

質問

技術職員についても即戦力確保が難しい状況であり、工業高校へのPRや未経験者の育成などに取り組んでいる。

質問

高齢化や担い手不足が続いた場合、将来的にイン

フラ維持が困難となるリスクをどのように認識しているか。

答弁

事業者確保が難しくなれば、生活インフラの維持管理体制に影響を及ぼすリスクがある。

資格取得や技能習得には時間を要するため、中長期的な担い手確保の視点で町内横断的に情報共有を図っていく。

質問

資格取得支援や若手人材の育成・定着支援など、さらなる支援策について町の見解を。

答弁

町では就職奨励金や奨学金返還支援、研修費補助などを実施しているが、採用・定着には課題がある。

資格取得支援は、取得後の離職や転職の可能性もあることから慎重に判断し、現時点では採用・定着・育成に取り組む企業の支援強化を優先する。

議会活動アラカルト

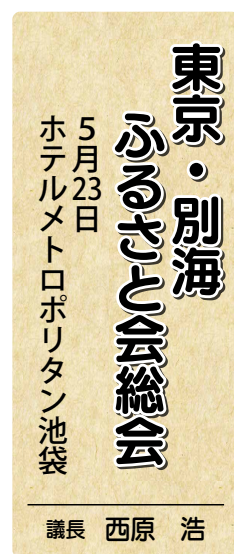
物産展への
協力・応援な
ど、別海町の
まちづくりを
「外から支え
る」役割に感
謝の意を伝え
ました。



会員、町関係者、友好企業など88名が出席し、創立30周年記念総会が開催されました。

総会では、30周年記念誌の発行と、別海町での記念植樹が計画された他、別海町の近況報告や交流も行われました。

デジタル地域通貨オトモノが東京の「別海町酒場」でも本年度から使用可能となり、町職員および地域おこし協力隊員が説明とアプリ登録支援を行いました。



「べつかい議会だより」特選！

北海道町村議会広報コンクールで最高位の特選を受賞しました。

議会の仕組みや議員の仕事を解説する連載など、身近に感じてもらう工夫が「読者目線で好印象」との評価をいただきました。

今後も、分かりやすく興味深く読んでもらえる紙面を目指します。



議会だよりは「町議会ホームページ」でも閲覧できます



道議長会の自治功労者を表彰

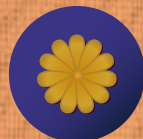
多年にわたり、議会議員として議会制度の高揚と地域の振興および住民福祉の向上、地方自治の発展に寄与されてきたことが認められ、西原議長と今西議員が表彰されました。



西原 浩 議長 25年以上の在職
(議長在職期間中は2倍に換算)



今西 和雄 議員 15年以上の在職

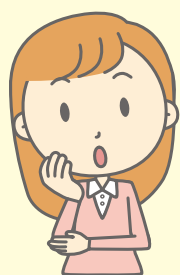


Let's go! ^{レッツゴー!} 議会!

その「もっとこうなったらいいのに」 を議会へ!

～議員は特別な人になるものではありません～

仕事や家庭、地域での暮らしの中で感じた疑問や不便さが、活動の出発点になることもあります。



こんな気づき、ありませんか?

身近な気づきこそ、町をより良くする
第一歩になるかもしれません。



高齢者が移動
しやすい町に



困っている人の
声が届く町に



子育てしやすい
環境に

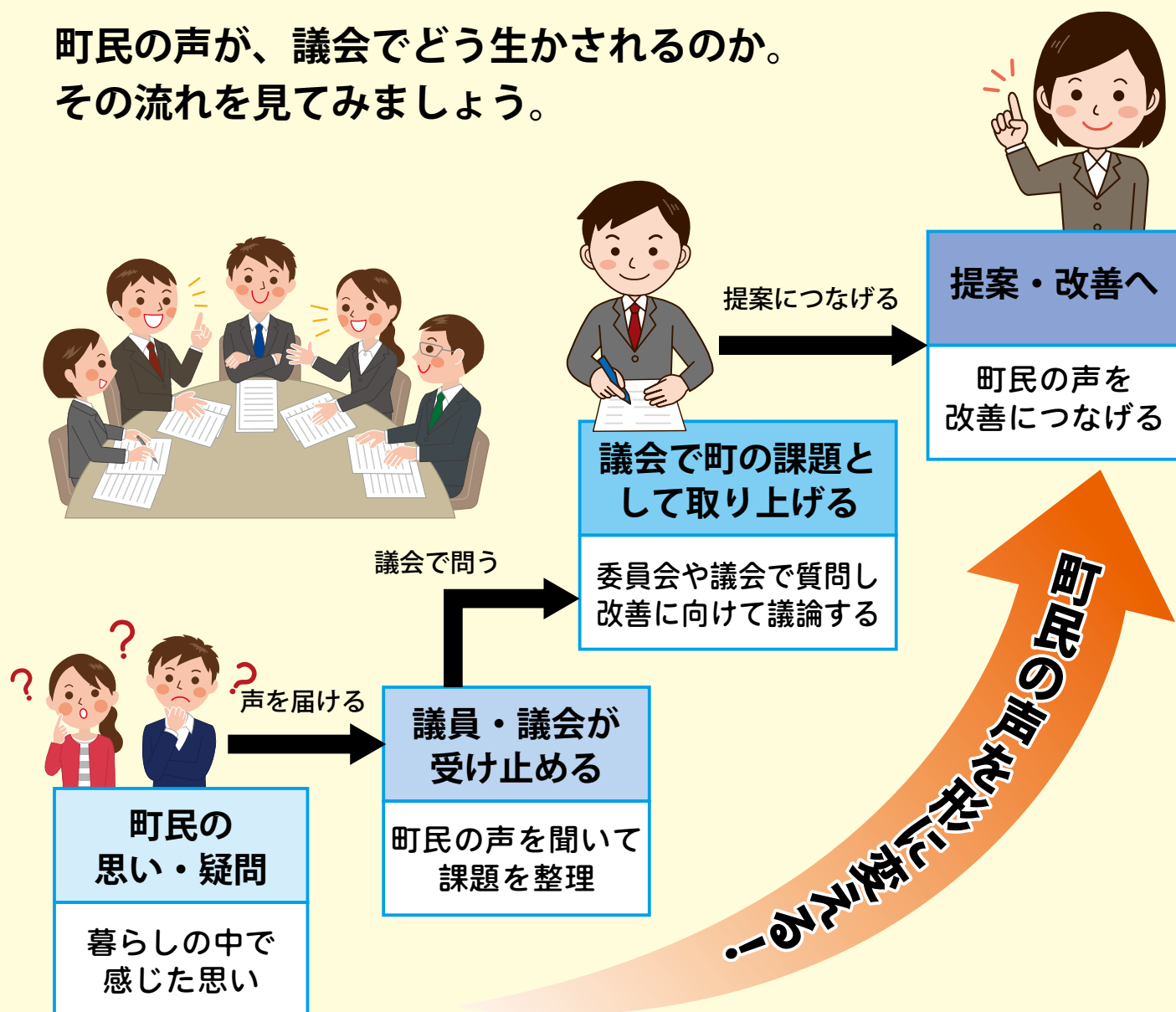


議員になると、その声を前に進められます

身近な気づきや思いを、議会につなげていく。
それが議員の役割です。

「議員になると、何ができるの？」

町民の声が、議会でどう生かされるのか。
その流れを見てみましょう。



ふだんの生活で感じるものが、議会の大切な視点になります。
最初から政治に詳しい人ばかりではありません。

これが
ホンネ!

7期生4年目 さとう はつ お **佐藤初雄議員** に聞いてみました!!

Q

どんな思いで議員になりましたか？

A

水道や道路など生活インフラの整備が進む一方、社会情勢で地域の状況が一変。農家として強い危機感を抱き、産業と暮らしを守り、良くしたいとの思いで議員を志しました。



三世代の音を、子どもたちへ — 民謡グループ「すずの音会」 —

「日本の楽器の音を知ろう」

7月17日、上春別小学校音楽の授業に、別海町の民謡グループ「すずの音会」が招かれました。

三味線のしらべと伸びやかな歌声が音楽室いっぱいに響きわたり、5・6年生（14人）の子どもたちは目を輝かせて聴き入っていました。



左からまめ吉さん、平尾さん、鈴木さん

すずの音会は3人で活動しています。代表で三味線を担う鈴木愛子さん（48歳）、芸歴44年で北海道民謡連盟の審査員を務める平尾英俊さん（80歳）、お囃子を担う「まめ吉」さん（39歳）。年代もばら

ばらの三世代が、それぞれ別の道から民謡へとたどり着いたそうです。

きっかけは、代表の鈴木愛子さんの「一人で弾いていてもちょっと寂しい」という思いでした。

札幌で習い始めて20年、別海に戻ってからモリモトレッスンで三味線を続けてきたといいます。

「平尾さんとできた方がいいな」と人づてに話していたところ、ある日その思いが伝わり、電話がかかってきたそうです。

「こんなにすごい方から声をかけていただけるとは思わなかった」と振り返ります。



平尾さんはこう語ります。
「別海町の民謡愛好家は、いま20人にも届きません。最盛期は62人を超えていたんですけれどね」。だからこそ、子どもたちに届けたい。三世代がつながる「すずの音会」の挑戦は、その思いから始まりました。

次世代に日本文化の伝統、民謡・和楽器をつないでいく活動も目的の一つです。



結成からまだ2年。固定の練習日は設けず、それぞれの仕事や暮らしを大切にしながら、無理のないペースで民謡と歩み続けています。演奏のご依頼があれば、どこへでも駆けつけます。皆様のものと、民謡の心と音色を届けにまいります。

令和8年第3回定例会は
9月7日(月)～9月11日(金)
を予定しています



別海町議会
YouTube チャンネル



一般質問の傍聴にきてみませんか？

一般質問日

9月8日(火) 予定

お待ちしております!!